

# えびす



半年間の厄をはらい、すがすがしい気持ちで夏の無病息災を祈る大祓神事「大茅輪くぐり」が六月三十日午後四時から斎行されます。神職と氏子・崇敬者らは、拝殿前に設置された直径約四メートルの大茅輪を三回くぐって身を清めます。この行事は「備後国風土記」の故事に由来するもので、大茅輪に使用される茅は西宮市の山口町で刈り取られたものです。

平成12年  
夏号

# えびす 平成12年 夏号

▼四季の境内（阪神タイガース必勝祈願）



### ◎編集室から

各講社の太々神楽祭には、全国より多数の講員のご参集を頂き、本年も盛大に斎行することができました。講という古からの崇敬組織を維持・発展させていく為には、現代社会において幾多の困難もありますが、今後もより一層お世話人と神社の絆を強めていかなければならないことを実感いたしました。

本号の編集に当たりましては、当社様々の祭典で舞楽をご奉納頂いております原笙子様、また西宮文化協会の役員として郷土資料収集にご尽力されております堀内冷様のご多大なるご協力を賜りました。この場をお借りいたしまして厚くお礼申し上げます。

(英)

西宮えびす平成12年夏号（通巻第13号）  
平成12年6月1日発行  
発行/西宮神社

〒662-0974 兵庫県西宮市社家町1-17  
TEL/0798-33-0321  
FAX/0798-33-5355

編集/講務課広報  
デザイン/OHTAファーゼン  
資料提供/西宮文化協会  
原笙会

### ◆夏越しの大祓 六月三十日

●六月三十日までに人形をご返送下さい  
人形に氏名と年齢を記入し、所定の作法で穢や災いをお移し下さい。六月三十日までに人形をご返送頂ければ、大祓式でお祓いをいたし、おさがりとして「茅輪」をお送りします。

◎人形をご希望の方はお知らせ下さい



### ◆観月祭晩餐会 九月十二日

●九月七日までにお申し込み下さい

中秋の名月にあたる九月十二日、本殿での祭典に引き続き、神社会館におきまして晩餐会を開催します。ビブラホンの演奏とポピュラーソングをお聞き頂き、老舗「播半」のお月見会席料理をお楽しみ下さい。

◎定員百名・晩餐会費一万二千元

資料ご希望の方はお知らせ下さい



### 境内探訪

2

### 六英堂



六英堂とは、岩倉具視公の私邸建物の一部で、明治の初め、この部屋で諸公がしばしば密議をこらしました。

当時の日本を代表する六人の政治家（岩倉具視・木戸孝允・西郷隆盛・大久保利通・三条実美・伊藤博文）が英知を集めた建物という意味でちに六英堂と名付けられました。

又、具視公の明治十六年の病臥に際し、明治天皇・皇后両陛下の再三にわたる見舞の御臨幸を仰いだ由緒ある建物であり、同七月二十日薨去せられるにいたった終焉の場所でもあります。

建物は木造平屋建、約百平米で十二畳半二間と鞘の間があり、三方を縁側

でめぐらしたもので、ほとんど原型のままの姿をとどめています。もとは、東京・丸の内にあります。具視公の薨去後、新宿、渋谷、神戸と移転を重ね、昭和五十二年にこの歴史的価値をもつ建物を永久に保存し、有効に活用する目的で当社の境内に移築されました。

阪神大震災では、柱がゆがむなどの被害をうけましたが、平成九年八月に復旧工事も完了し、現在はお茶会などに利用されています。



◎六月三十日

なご

おおはらえ

# 夏越しの大祓

半年間の穢や災いを武庫の海に流し、清々しい晴れの心を取り戻しましょう。

夏になると、昔はよく伝染病が流行しました。

数年前のO157という病原性大腸菌による集団感染の恐怖は記憶に新しいところです。

防疫の知識がなかった昔は、そのような疫病が発生すれば、人々は今以上に猛威におののいたことでしょう。それを御霊(怨念者の霊)の祟りと考え、疫神退散のためのお祭を盛んに行ないました。特に有名なのが、毎年七月に行なわれる京都・八坂神社の祇園祭です。八坂神社のご祭神スサノオノミコトは、猛々しい勇敢な神様ですから、このご神威を以ってすればさしもの疫病も終息することができると信じられてきました。当社の本殿の第三殿にも須佐之男大神様がおまつりされています。



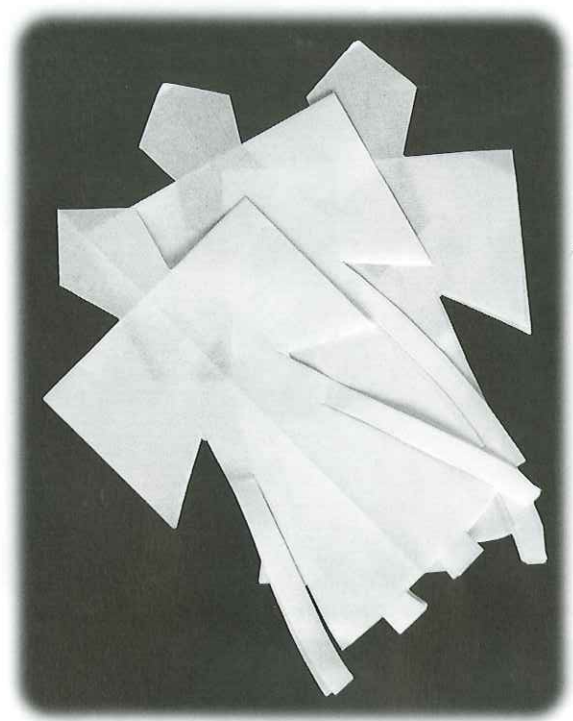
## 茅輪(ちのわ)のくぐり方

1. 茅輪の正面で軽く一礼の上、唱え言葉を誦しながら輪をくぐり左へ廻る。
2. 正面にもどり輪をくぐり右へ廻る。
3. 最後に正面にもどり輪をくぐり左へ廻る。

### ●唱え言葉

「水無月の夏越しの祓する人は千歳の命延ぶというなり」  
「思う事みなつきねとて麻の葉をきりにてきりても祓つるかな」  
「蘇民将来、蘇民将来、蘇民将来…」

神社から授与される「茅輪」を出入口などに取り付けて無病息災・家内安全をお祈りします。

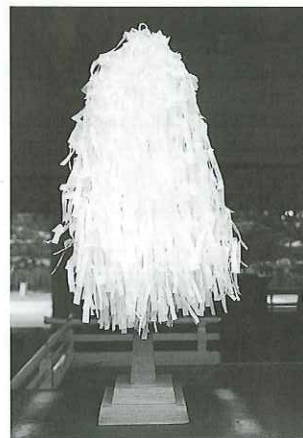


## 人形(ひとがた)

日常無意識のうちに身体についた穢や災いなどは一年を上半期と下半期の二回にわけて、六月三十日と十二月三十一日に行われる大祓式で祓われ、穢を移した人形や祓の道具を海や川へ流すことによって清められてきました。

人間の身代わりとなる人形で身体を撫ぜ、息を吹きかけて穢や災いなどを移します。

●人形は今では紙製のものですが、昔は金属、木、藁製のものもありました。三月の節句に行なわれていた流し雛(雛人形の源流)も同じような性格のものです。



## 麻(ぬさ)

お祓いの時に差し出されるものをヌサといい、敬意を込めて「大麻」と呼ばれています。

主として木綿や麻、のちには紙などが用いられてきました。今日では、榊の枝や白木の棒に紙垂をつけたものでお祓い受けますが、古くは祓を受ける人がヌサを手で引いて割くことによって穢や災いを移す方法が取られてきました。

●古の作法により神職が木綿と麻の布を八針に切り裂いて、祓を行ないます。

「備後国風土記」には、スサノオノミコトが旅の途中に宿を乞うたところ、裕福な弟巨旦(こたん)将来は貸さず、貧しい兄の蘇民(そみん)将来は快く二夜の宿を提供し、粟でもてなしました。そのお礼に「もし後世に疫病があれば、蘇民将来の子孫であるといつて、茅の輪を腰につけなさい」と言われました。蘇民将来の子孫は教えを守り疫病から免れて家門繁栄しましたが、巨旦将来の一族は死に絶えてしまったという説話が残されています。この説話にもとづいて、夏越しの大祓では大茅輪くぐりが行なわれ、人形を納められた方には小さな茅輪をお送りします。

## ●人形によるお祓の作法

1. 人形に氏名と年齢(数え歳)を記入します



2. 人形で体を撫ぜます(特に具合の悪いところは念入りに)



3. 人形に息を三回吹きかけて、祈念を込めます



4. 人形を袋に戻し、神社へ返納します



# おこしや祭り

六月十四日



行列を整えておこしや跡地へ向かうびわ娘



びわ娘によりピワが無料で授与されます



おこしや跡地へ巡幸する御輿

## 関西の夏祭りのさきがけ

その昔、えびす様が今の神社の場所に來られる途中、居眠りをされてお目覚めにならなかつたため、お尻をひねって起こしたと伝えられている所が「おこしや跡地」として残されています。今でも毎年六月十四日には、えびす様をお乗せした御輿が「おこしや跡地」まで巡幸してお休みになられます。いつの頃からかこのお祭りにピワをお供えることから「びわ祭り」とか、この日から浴衣を着始める習慣から「ゆかた祭り」とか、えびす様のお尻をひねったという伝説から「尻ひねり祭り」とも呼ばれています。昭和の初め頃までは、この日だけは誰のお尻をつねってもよいという風習が広まり、女性は洗面器や座布団でお尻を守っていたそうです。



神社より授与されるびわ鈴

# 観月祭

九月十二日



かぐや姫を月からお迎えにきた天女をイメージした「柳花苑」の舞い



本殿前の舞台上で斎行される観月の祭典



原笙会主宰  
原 笙子 さん

これまで男性によって舞われていた舞楽を渡来の原点に戻り、女性による華麗な舞いの再興をめざして昭和60年に原笙会を発足しました。正当な舞楽の伝承・発展を願い、社寺でのご奉仕、世界各地で公演を重ねる傍ら、後継者の養成、装束製作の技術修得なども行なっています。

中秋の名月、観月の祭典と舞楽の夕べ  
今年で第十一回目を迎える観月祭を十五夜にあたる九月十二日に斎行します。ライトアップされた本殿前の特設舞台上で観月の祭典を執り行ない、世界各地で公演を重ねられている女人舞楽・原笙会による、観月の祭典にふさわしい舞楽「柳花苑」と「五節舞」を奉奏いたします。

「柳花苑」源氏物語にその名が出てくるだけで、その後約千年間、曲だけが伝えられて来ましたが、平成元年「信西古楽園」に遺された唐風装束の舞姿を参考に、天女の姿をイメージした柳のようにしなやかに舞う女性らしい舞に再現しました。

「五節舞」天武天皇が吉野の高宮で琴を弾いておられる時、天女が天下って五度袖をひるがえして、舞ったのをかたどったものだとされています。天皇即位礼の度に新たに作られますが、今回はかぐや姫の姿をイメージした平安時代の髪型にしてみました。



## 夏祭り

七月二十日



午前十時から祭典と湯立て神楽が斎行されます。

午後六時のえびす萬燈籠点灯式に引き続き、ご神火を手にした氏子らにより、境内外の約三百基の燈籠が点灯されます。

## 例祭・渡御祭

(だんじり巡行)

九月二十二日・二十三日



二十二日午前十時からの祭典には、氏子をはじめ全国からの崇敬者の参拝があります。二十三日には若えびす会による、だんじりの巡行が行なわれる他、船渡御の再興も計画されています。

## 宮水まつり

酒蔵ルネサンス

十月七日・八日



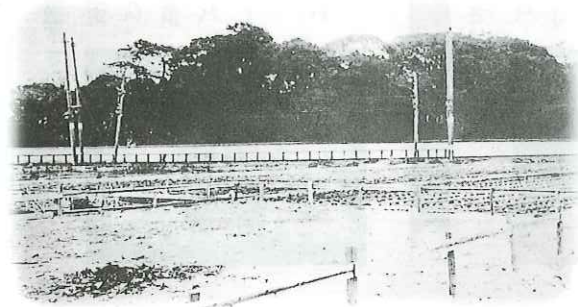
七日午前九時から宮水発祥地の記念碑前で祭典が行なわれた後、行列を整えて宮水を西宮神社まで運び「えべっさんの酒」の醸造成功が祈願されます。また、七日・八日の両日には第四回目を迎える酒蔵ルネサンスが境内で開催されます。



◎社務所前から南側・南宮神社方向（現在）



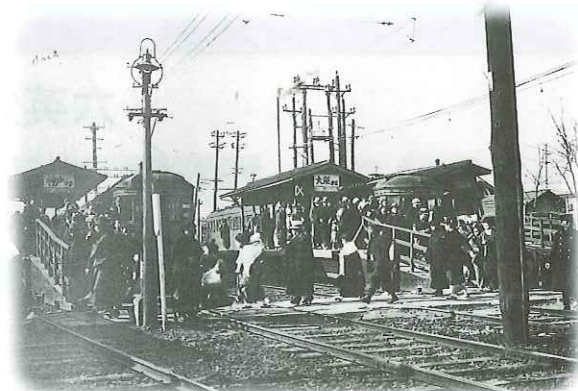
◎社務所前から南側・南宮神社方向（大正時代）



◎阪神電車の線路の向こうにえびすの森を望む（大正時代）



◎池に面した参道の茶屋（大正時代）



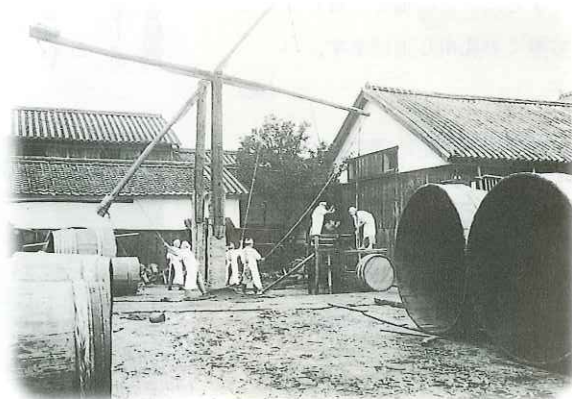
◎十日えびすの参拝者で賑わう阪神西宮駅（大正時代）



◎赤門前本町通り（明治時代）



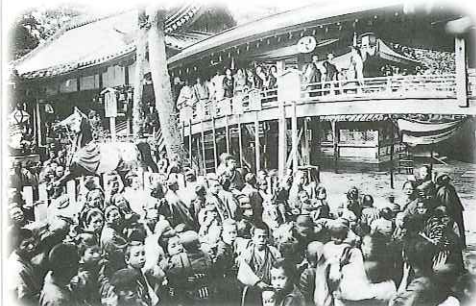
◎開門神事福男選び（戦後すぐ）



◎宮水井戸場（大正時代）



◎拝殿（明治時代）



◎明治31年拝殿前の銅製神馬が奉納されたのを祝って行なわれた餅まきの様子。当時は拝殿と社務所が渡り廊下で結ばれていました。



◎平成10年震災で全壊した社務所が新築され、本殿と渡り廊下で結ばれました。



◎寛文3年(1663)4代將軍徳川家綱公再建による本殿は国宝建造物に指定されていましたが、昭和20年の空襲で借しくも消失してしまいました。



◎昭和8年式年造営が行なわれ、本殿の檢皮の葺替え、透塀・拝殿が改築されました。



◎昭和36年本殿が元の姿のまま復元されました。拝殿も新築され、社務所と地下道で連結されました。

# えびす信仰 写真で見る西宮神社・今昔

神社の境内や周辺の様子は、昭和二十年八月の空襲・震災によって随分かわりました。今回は、時代の流れを写真で辿ってみました。

